

「GLP-1・GIP/GLP-1 受容体作動薬導入後における糖尿病性網膜症早期発現リスクに関する検討」 へのご協力をお願い

山口県立総合医療センター薬剤部では、臨床研究倫理審査委員会の審査を受けて、院長の許可のもと、下記の臨床研究を実施しております。

本研究は診療情報を用いた後ろ向き観察研究であり、対象となる方に新たな検査や治療などの負担は一切ありません。本研究の趣旨をご理解頂き、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。なお、研究にご自身の情報が使用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先までお申し出ください。

【研究課題名】

GLP-1・GIP/GLP-1 受容体作動薬導入後における糖尿病性網膜症早期発現リスクに関する検討

【研究の目的と意義】

GLP-1・GIP/GLP-1 受容体作動薬(セマグルチド等)導入後、糖尿病性網膜症が一時的に悪化するとの報告があります。本研究では、当院で GLP-1・GIP/GLP-1 受容体作動薬を導入された 2 型糖尿病患者の診療記録を用いて、糖尿病性網膜症の新規発症や進行リスクとの関連を後方視的に評価し、将来の治療戦略や眼科的フォローアップの指針となる知見を得ることを目的としています。

【実施期間】

院長許可日 ～ 2027 年 3 月 31 日

【方法】

2023 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日に GLP-1・GIP/GLP-1 受容体作動薬(セマグルチド、リラグルチド、チルゼパチド、デュラグルチド)の何れかを導入された 2 型糖尿病患者を対象に、診療記録を用いて糖尿病性網膜症の進行リスクを後方視的に検討します。研究に伴う新たな検査・診療は一切ありません。

【使用する情報】

年齢、性別、BMI、糖尿病の罹病期間、既往歴、導入された GLP-1・GIP/GLP-1 受容体作動薬の種類・用量・投与日、HbA1c の推移(導入前後)、眼底所見、網膜症の有無・分類・進行状況

【個人情報の取り扱い】

個人を特定できる情報は匿名化し、外部に漏れないよう厳重に管理します。研究成果は学会・論文等で公表されますが、個人が特定されることはありません。

【実施体制】

山口県立総合医療センター 薬剤部 栞原里美(研究責任者)
山口県立総合医療センター 薬剤部 石橋美紀、小山舞、相良淳子、有間幹人
山口東京理科大学薬学部医療安全学分野 相良英憲

【問い合わせ先】

山口県立総合医療センター 薬剤部
担当:相良淳子
電話:0835-22-4411(代表) ※対応時間:平日 9:00～13:00